

絵の具などを使い自由に絵を描く子どもたち=川崎市中原区のとどろきアリーナ



## よこはま・かわさき

横浜国大  
学生ら

# アートな遊びで笑顔

## 中原区の避難所慰問

美術教育などを学ぶ横浜国立大学の学生らでつくるゼミナール「アートツール・キャラバン」が23日、被災者約100人が身を寄せる川崎市中原区のとどろきアリーナにある避難所を訪問。オリジナルのおもちゃで遊ぶワークショップ「あそんでつくるアートなあそびば」を開催し、避難所や地域の子どもたちが参加した。

アートツール・キャラバンは「自分の感じていることの大切にしてほしい」と、五感を刺激する独自のおもちゃを使ったワークショップを各地で展開している。

今回は、東日本大震災発生後に「自分たちにできることは何か」と考え続けた学生や卒業生が中心となり、計画した。ゼミナールを取りまとめる大泉義一准教授は「子どもたちは不安を抱えながらも、徐々に新しい友だちと仲良くなりつつあると思う。自由に遊んでもらいたい」。会場では、

ユニークなおもちゃが多数並べられた。風船の中に小麦粉や豆など好きな物を入れて作る置物「何のたまご?」に興味

(松島 佳子)

を示した中原小学校5年の小田さくらさん(10)は「たまごを握ると、感触が気持ちいい。自分で作るので達成感もある」と笑顔。絵の具に粉を混ぜて絵を描く児の姿もあり、子どもたちは思い思いに芸術を楽しんでいた。

## 個性際立つ「三人展」

異なる世代の美術家作品  
中区の画廊

美術家の田中岑さん(90)、渡辺豊重さん(79)、海老塚耕一さん(59)による「三人展」が、横浜市中区のせんたあ画廊で開かれている。30日まで。

ともに親交が深かった、美術評論家の故・佐々木静一さんにささげる展覧会として企画された。会場には、小さな木箱にさまざまな色彩を施した田中さんの作品

市営地下鉄ブルーライン電力削減へLED導入  
3年間でホームなど使用電力を30%削減する